
ポリクリを終えて

ポリクリを終えて

歯学科5年 森川雄太

新潟大学に入学してから5年半が経った。あっという間に学年が上がり、実感が湧かずにいたが、馴染んできた白衣の汚れがこれまでの4年間の時間の経過を物語っている。

5年生に上がり、臨床予備実習（ポリクリ）が始まった。これまで行ってきた実習よりも臨床を強く想定した実習である。ポリクリに向け、着慣れた白衣から新しい緑衣へと袖を通したことで身が引き締まる思いと同時に、先輩方の背中に一歩近づけたようにも思えた。

実習は、模型相手から学生同士の人相手へと変わった。グローブを付け、歯科器具を持ち、人の口の中を触るのは初めてのことだ。口腔粘膜は、模型では感じることもなかった軟らかさや温かみが人の口を触っているということを強く実感させた。散々模型でやってきたという自信の裏に、言葉では表せない不安や緊張を感じていた。

ポリクリも板につき、新鮮だった互いの緑衣姿にも見慣れた頃には既に5年生になって半年が経とうとしていた。10月にはポリクリが終わり、実際に患者さんに治療を行う臨床実習の準備が始まる。臨床実習で治療を行うことは自分たちが目指している歯科医師としての姿に近く、憧れていた。10月になり、臨床実習のための登院式が行わ

れた。そこで先生方から青い糸で自分の名前の刺繍が施された緑衣を頂き、また一歩前進したような気がして高揚感のようなものを覚えた。

臨床に出て、今までとは違う新しい環境に身を移すことに期待と不安が共存していた。最初の1か月間は先輩と一緒に行動し、臨床のいろはを教わる引き継ぎ期間である。臨床の現場は覚えることが非常に多くある中、右も左もわからない私たちは先輩にお世話になりっぱなしであった。慣れた手つきで治療を行い、自分らの質問に対しても全て丁寧に答えて下さる先輩方の背中中、思っていたよりも大きく、遠いところにあるように感じた。自分たちにも同じことができるだろうか。抱えていた不安は大きく膨らんだ。

ひとり立ちした今、この不安を消していくためにも、将来、立派な歯科医師になるためにも、日々勉強にさらに励まなければならないことを改めて感じた。



ポリクリを終えて

歯学科5年 大久保 光

ポリクリを終えて、CBT、OSCEという山場を越え、臨床実習の荒波に飲まれ息つく暇もなく2018年を終えようとしている現在。年の瀬を実家で過ごししながら、5年生の生活を振り返ってみる。臨床実習までの道のりを、後輩が知る手助けになればと思う。

5年生に上がり、緑衣に袖を通し、ポリクリが始まる。これまでの講義や実習とは異なり、班毎の行動が主となる。座学で学んできた歯周、小児、矯正、口腔外科など各科毎の臨床的な実習をそれぞれ班毎に回っていく。ファントム相手の実習ではなく、相手は生身の人間だ。スケーリングひとつ取っても歯肉を傷つけることが怖くて中々うまくいかない。採血や伝達麻酔など、より侵襲の大きい処置は相手との信頼関係が重要となる。緊張感の中で学生同士助け合わなければ成り立たないのだ。

ポリクリはOSCE対策とも言われているが、これまでの講義内容を実際に体験することで知識がしっかり身に付くため、CBTや国家試験の為のいい勉強にもなる。器具や処置内容は実際に見るまでイメージが付きにくいものだが、一度見ると一気に理解が深まる。また臨床実習でも役立つ内容が盛りだくさんのため、ポリクリの内容はしっ

かり整理して取っておくことをお勧めする。

ポリクリも終盤を迎える頃、CBTがやってくる。スケジュール上、ポリクリの合間にCBTを挟むため、どうしても分からない科目は出てくる。班毎にポリクリで未履修の内容も異なるため、お互いに教え合うことで補うことが出来た。

CBTを無事終わるとすぐOSCEだ。ポリクリの内容を復習し、お互い試験官役となり対策した。ここでも仲間の存在が鍵である。

晴れて合格、登院式を経て臨床実習にあがると、これまで以上に仲間と助け合う日々を送ることになる。ぜひとも同期を大切にしてほしい。

新年からも、臨床で指導して下さる先生方、私達を見えない面でも助けて下さる病院スタッフの方々、広い心で協力して下さいる患者さん、支え合ってくれる同期への感謝を忘れず気を引き締めて頑張りたい。

